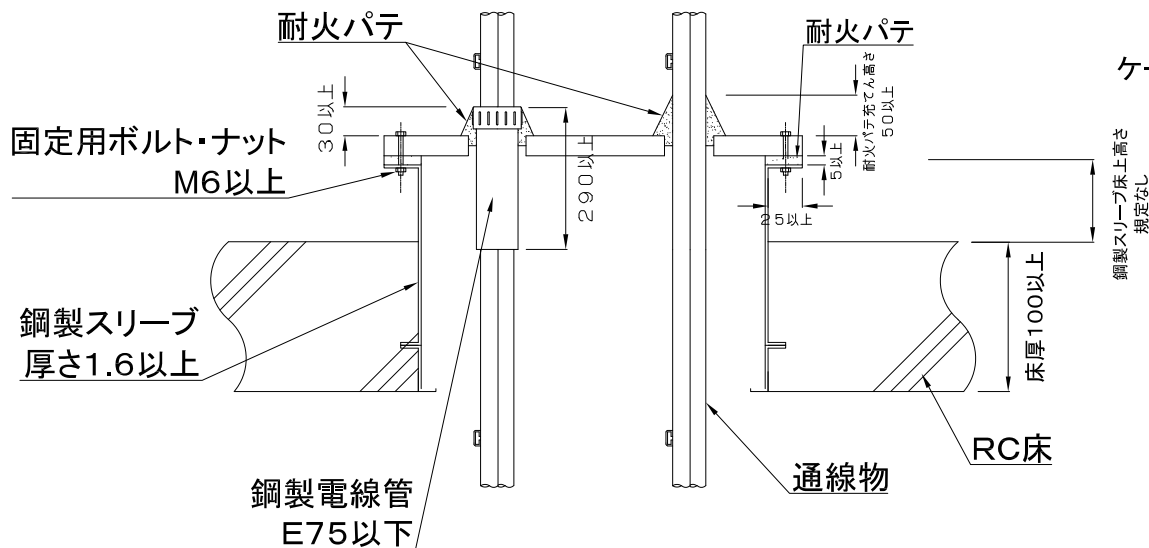
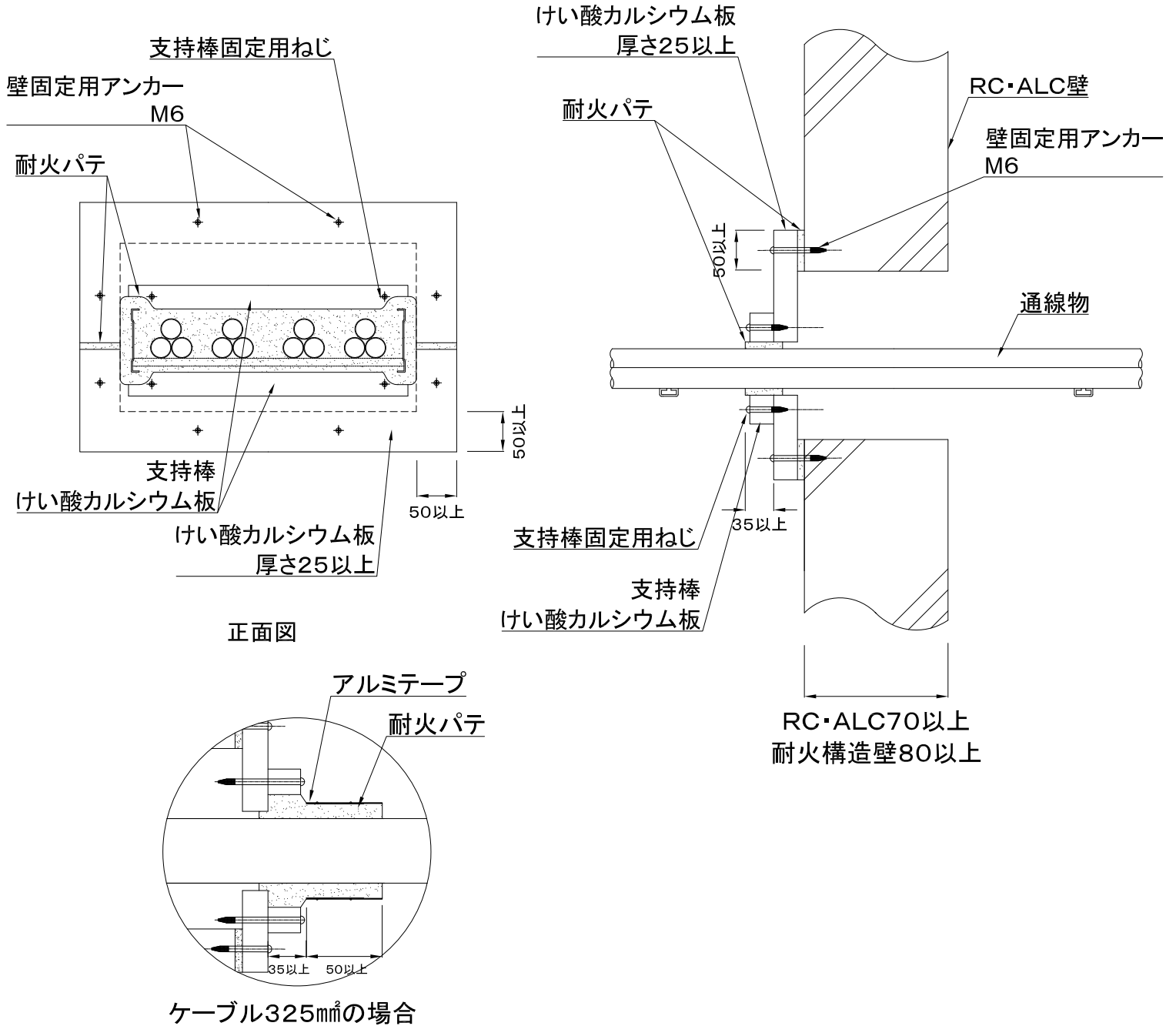


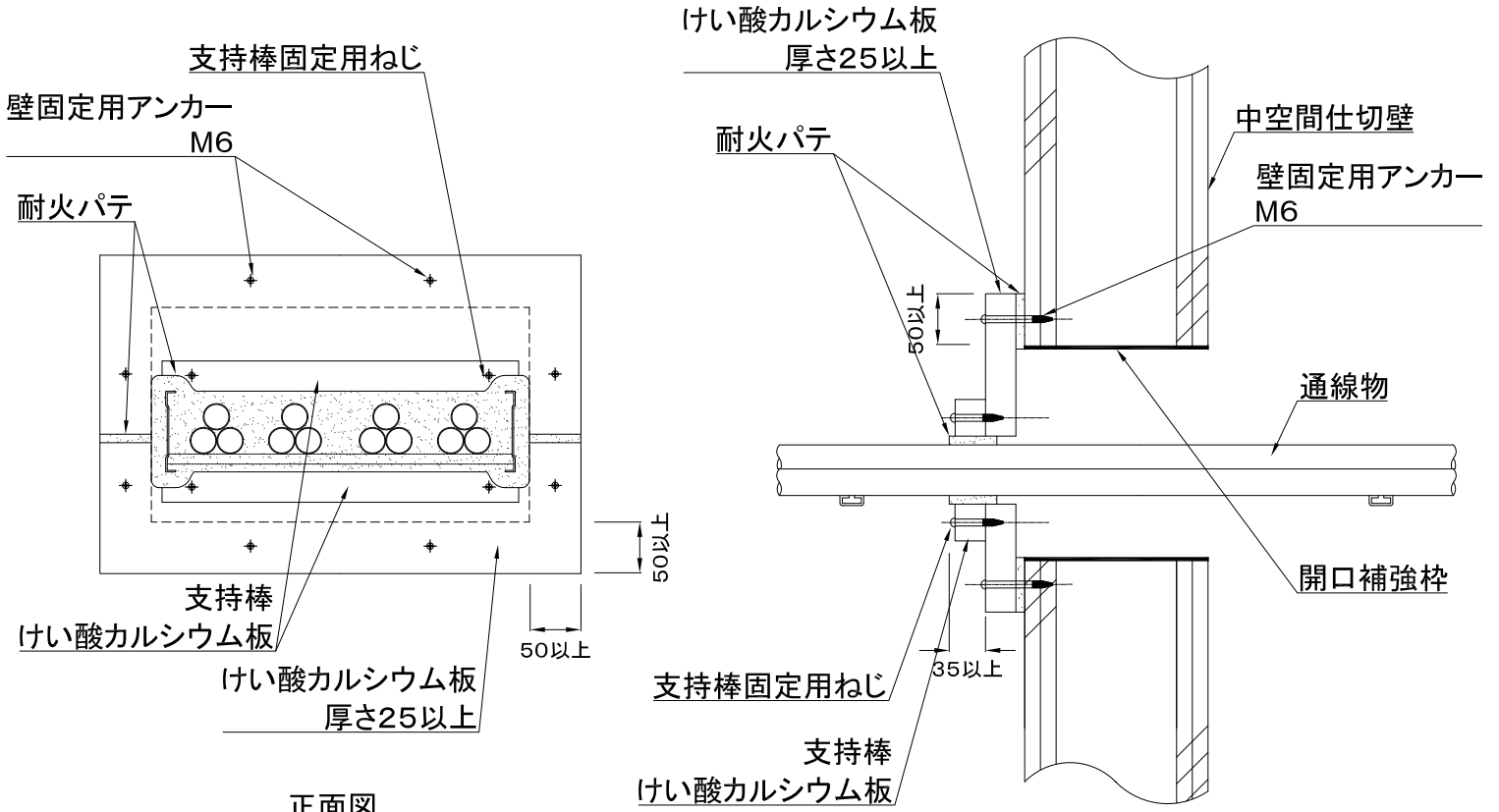
ケーブル325mm²の場合



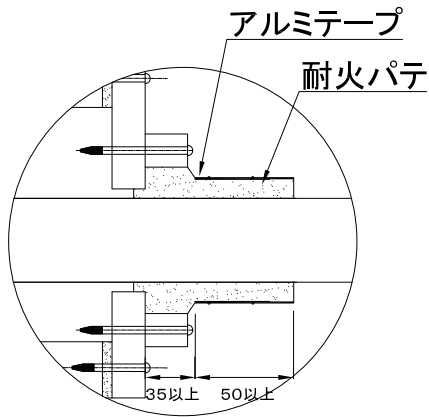
項目		仕様
国土交通大臣認定番号		PS060FL-0223
貫通する床の構造等		RC床 100以上 ※鋼製スリーブ厚さ1.6以上要設置(床上高さ規定なし)
開口部	形状(面積)	矩形(0.6m ² 以下)
占積率		15.5%以下
耐火仕切板		けい酸カルシウム板(厚さ25以上)
耐火パテ		ダンシール-P
通線物	電線・ケーブル(1本あたり導体断面積)	325mm ² 以下(600V)
	鋼製電線管	E75以下(長さ290以上)
施工方法		<ol style="list-style-type: none"> 1 開口に鋼製スリーブを設置する。 2 けい酸カルシウム板を床スラブ上の貫通物形状に合わせて切断後、厚さ5以上の耐火パテを挟み鋼製スリーブ上側の上部フランジにM6以上のボルト・ナットにて設置する。 3 開口上側から、耐火パテを貫通物とけい酸カルシウム板の間および貫通物周囲に高さ50以上、鋼製電線管は高さ30以上で円錐状に盛り上げて施工完了。 4 ケーブルが325mm²の場合、耐火パテを更に長さ50以上巻付け後、アルミテープと鉄線で固定する。



項目		仕様
国土交通大臣認定番号		PS060WL-0274
貫通する壁の構造等		RC・ALC壁 70以上 耐火構造壁 80以上
耐火仕切板		けい酸カルシウム板(厚さ25以上)
耐火パテ		ダンシール-P
開口部	形状(開口面積)	矩形(0.6m ² 以下)
占積率		20%以下
通線物	電線・ケーブル(1本あたり導体断面積)	325mm ² 以下(6,600V)
施工方法		1 けい酸カルシウム板を貫通物形状に合わせて切断後、耐火パテを挟み被り代50以上を設けてM6以上のアンカーボルトにて設置する。 2 耐火パテを貫通物とけい酸カルシウム板の間および貫通物周囲に高さ35以上で盛り上げる。この時、下側に設置したパテの落下防止として支持棒(けい酸カルシウム板)を設置する。 3 ケーブルが325mm ² の場合、耐火パテを更に長さ50以上巻付け後、アルミテープと鉄線で固定する。



正面図



ケーブル325mm²の場合

項目	仕様
国土交通大臣認定番号	PS060WL-0274
貫通する壁の構造等	中空間仕切壁 80以上 ※開口補強枠(厚さ1.6以上)要設置
耐火仕切板	けい酸カルシウム板(厚さ25以上)
耐火パテ	ダンシールP
開口部	形状(開口面積)
占積率	20%以下
通線物	電線・ケーブル(1本あたり導体断面積)
施工方法	325mm ² 以下(6,600V)
施工方法	<ol style="list-style-type: none"> けい酸カルシウム板を貫通物形状に合わせて切断後、耐火パテを挟み被り代50以上を設けてM6以上のアンカーボルトにて設置する。 耐火パテを貫通物とけい酸カルシウム板の間および貫通物周囲に高さ35以上で盛り上げる。この時、下側に設置したパテの落下防止として支持用補助材(けい酸カルシウム板)を設置する。 ケーブルが325mm²の場合、耐火パテを更に長さ50以上巻付け後、アルミテープと鉄線で固定する。